

# 新生会

田村孝(代表)、松浦博幸、瀬川健則、田中榮司夫、工藤剛、工藤直道、大和田順一、大森力男、立花安文、北口和男(公明党)

## 駅の周辺整備で地域が活性化

新生会と北口和男議員(公明党)は合同で、10月25日から28日まで、①山梨県甲斐市のJR竜王駅周辺整備事業によるまちづくり、②岡山県の青少年健全育成の取り組みについて視察研修を行いました。

### ◎JR中央本線竜王駅周辺整備事業

山梨県甲斐市は平成16年9月1日に3町が合併して誕生した新市で、新市の玄関口であるJR中央本線竜王駅舎は、古い平屋の建物で、駅前広場は小さく、国道から駅につながる市道は狭く、駅利用者にとっては非常に不便な駅であった。



山梨県竜王町JR竜王駅 (11月25日)

合併を契機に、この駅を新市の新しい顔にしようと、竜王駅周辺整備事業に取り組み、総事業費95億円を投入して事業は平成22年度末で完了した。

この事業実施によって、次のような著しい効果が得られた。

### ①利便性の向上による乗降客数の増加

岡山県では各市町村が青少年育成センターを設置しており、このセンターが中心となって活動する体制を取っていた。

方に同規模の駅前広場を整備し、タクシーや観光バスの駐車スペース、一般利用者の駐車場・駐輪場を設置し、さらに道路改良によって駅までの移動時間を短縮したことで、利用者が大幅に増加した。

### ②宅地化の促進

これまで駅裏側は、道路も整備されず、言わば手付かずの状態だったが、新設された駅裏側広場と広場につながる道路整備により、駅裏側の宅地化が一気に進んだとのことであった。

### ◎岡山県の青少年健全育成の取り組み

岡山県は青少年の健全育成に積極的取り組みしており、県庁を訪問して岡山県が制定している青少年健全育成条例の内容および具体的な県と市町村の取り組み状況について説明を伺った。

## 手続き簡単な国保税減免申請

米田定男(日本共産党) 高橋悦郎(日本共産党)

11月24日、米田定男、高橋悦郎の日本共産党市議二人は、国保税の低所得者に対する減免制度について研修するため、青森県弘前市を視察しました。

### ◎弘前市の国保税減免制度

弘前市の手法による減免制度は、岩手県内の自治体にはまだない制度である。弘前市がこの制度を定めた経緯は、平成13年度までは明確な減免基準がなく、市税の減免取扱要領を準用していたが、経済状況の悪化により生活困窮を理由とした減免を求める者が増加したため、国保税の減免規則の整備を行い、平成14年度からその規則を施行したものである。

この減免規則を作成するに当たって、多くの時間と人手を費やして調査を行っている。全国保加入者3万4084世帯の中から、対象となる可能性の1万3335世帯を抽出し、所得区分ごとに生活保護基準の割合を調査した。生活困窮による減免該当者の見込み



青森県弘前市役所 (11月24日)

また、広報や相談窓口などで市民への制度の周知にも力を入れていることも注目した。当市においても、国保加入世帯の状況は弘前市と大きな違いはないと思われるので、この制度の実施が求められる。

収入の合計と生活保護基準の合計との比率を算定したところ、1・23という数値を得た。弘前市ではこの数値を基準に、生活保護と同収入以下世帯は国保税の所得割額の10割を、生活保護基準の1・1倍、1・2倍、1・3倍の収入世帯をそれぞれ7割、5割、2割と所得割額から減免するものである。

この減免制度は、年々申請者が増加しており、平成21年度は165世帯が該当世帯となり、1575万円の国保税が減免されている。

この制度で注目されるのは、申請者による収入の見込み申請などの簡単な手続きで受け付けてもらえることである。

# 緑松会 自由クラブ

高橋光幸(代表)、伊藤一彦、古川津好、関善次郎(代表)、遠藤公雄、渡邊正、高橋喜代春

## 6次産業発展の陰に女性の力

緑松会と自由クラブは合同で、11月18日から21日まで「6次産業への取り組み」「世界遺産登録の観光への影響」「特化した営農組合の運営状況」を視察研修しました。

### ◎広島県世羅町の6次産業への取り組み

世羅町は、平成10年に設立された世羅高原6次産業推進協議会が母体となり、観光農園、直売所など61団体が加盟し、6次産業を発展させている。



島根県大田市役所 (11月19日)

この取り組みのきっかけは、町に移住して農業に従事した女性と農業指導員の女性の努力によることで、起爆剤は「よそ者、ばか者、若者」に加えて「女性」のようであり、女性のパワーはすごいと感じた。町を「6次産業の研修の町」としたいとの思いで取り組んでいくと、町の担当者が語っていたことが印象に残った。

### ◎島根県・石見銀山世界遺産登録による観光効果

世界遺産登録前と比較し、ピーク時に

は約60万人増加した観光客の多くが過渡型で宿泊に結びついていないことや、入り込みが減少気味の点が課題とのことである。さらに、徒歩での観光が主で、時間がかることから、団体観光客が減少し、マイカー利用の個人客が多くなっているのが現状である。

平泉が世界遺産登録されると、当市へも観光客の増加が見込まれるが、従来の通過型から時間消費型観光に移行しても、それだけでは宿泊に結び付けることが容易でないことを痛感した。宿泊客増加のためには、別な魅力づくりが必要である。

### ◎鳥取県米子市・箕野大豆組合の組合運営

減反対策として大豆の集団作付がされていた。耕作放棄地を出さないために、今後も続けていくことを目的として組合化した。大豆に特化した理由は、機械化ができ、補助金比較的多いからであった。その効果は、遊休農地と耕作放棄地ゼロへと結びついていた。

## 県内の市議会議員が一堂に会し研修実施

### 本市からは19人が出席

昨年11月16日、盛岡グランドホテルで、平成22年度岩手県市議会議員研修会が行われました。

この研修会は、住民要望の多様化に対処するため、知識を高め、今後の円滑な議会運営に役立てようと開催されたもので、県内13市から263人の市議会議員が出席しました。

研修会では、最初に、政治ジャーナリストの末延吉正氏が「混迷政局に終止符は打たれたのか」と題して講演。末延氏は、政局の状況を交えながら、「1カ月に1回、自分の頭の中を整理することが大切。その際は、活字を読んで『考える』ことをお勧めする。ワイドショーで取り上げる政治を見ても頭の中は整理できない」「すべての問題は自分にあることを認識すべし。他人のせいにしてはならない。自分自身



前田正二氏による講演

の反省に立ち、物事を進めることが重要」などと熱弁を振りました。

次に、IBCアナウンス学院講師の前田正二氏が「心に伝わる話し方」と題して、「文字言葉ではなく、話し言葉で話すと感情が伝わる」「人は、話を聴いてくれる人の話を聴くものである」などと語りかけました。

本市から出席した19人の議員も、今後の議会・議員活動の参考にしようと、2人の講師の時局を得た話に聴き入りました。

**3月定例会の日程について(予定)**  
3月定例会は、2月23日から約3週間開催します。詳しい日程が決まり次第、市議会ホームページに掲載(定例会初日のおよそ5日前)しますので、ご覧ください。また、傍聴を希望される方は、議会開会日当日、市役所3階・議会事務局までおいでください。  
詳しくは、議会事務局(☎76-2111、内線1323)まで問い合わせ願います。  
※市トップページ左側に市議会のバーナー(横長の細い見出し画像)がありますので、そこをクリックしてください。